

令和 6 年度 事業所訪問について

男女平等オンブッドの事業所訪問は、平成 19 年度から実施しており、令和 7 年 3 月末で 354 事業所となりました。平成 24 度からは、年間 20 事業所を訪問するという計画を立て、事業所における男女共同参画について状況把握をする
と共に、女性の就業分野拡大、役職登用、男性の育児休業取得率向上等について
周知啓発を継続して行っています。

訪問については、コロナ禍から、事業所訪問をさせていただくことが難しくな
り、書面にて質問に答えていただく形も取り入れています。その結果、今年度は、
訪問 7 事業所、来訪 1 事業所、書面訪問 12 事業所となりました。各事業所とも、
書面訪問にも関わらず質問事項に回答・返信いただき、再度の電話質問等につい
ても丁寧に対応いただきました。

訪問した事業所(書面・来訪含む)は 20 事業所で、規模については、1,000
人以上が 1 件、100 人から 200 人未満が 3 件、50 人から 100 人未満が
9 件、50 人未満が 7 件でした。そのなかで、越前市輝く女性活躍応援団へは、
5 事業所から賛同をいただくことができました。

その結果、「越前市輝く女性活躍応援団」の賛同事業所は平成 30 年設立時、
市内 126 事業所でしたが、今年度、新たに 10 事業所から賛同をいただき、令
和 7 年 3 月末で 206 事業所となりました。

こうしたなか、オンブッドとして、市長表彰「ウェルビーイング賞」の制定に
ついて、市長に要請を行いました。その結果、市は、令和 6 年 12 月 25 日、「越
前市女性活躍ウェルビーイング賞」として、越前市輝く女性活躍応援団賛同事業
所のうち、女性の採用・育成・登用等の活躍支援に積極的に取り組み、市内企業
の模範となる企業 3 社の表彰を行いました。

表彰式後、鷺頭美央福井県副知事を講師に迎え、「女性が働きやすい社会の実
現に向けて」－仕事も生活も楽しむために－と題して、記念講演をいただきまし
た。大河ドラマ「光る君へ」に見る「紫式部」の活躍等の話を交え、性別役割分
担意識からの変革の必要性を学びました。

今後とも、「越前市輝く女性活躍応援団」への賛同を推進し、さらなる女性活
躍の支援と企業のイメージアップを図りながら、事業所訪問を行っていきます。

なお、訪問にあたっては、訪問の趣旨を説明し理解を求めるとともに、この訪問が事業所にとってメリットとなるよう、参考になると思える情報の提供や雇用管理上の助言等に努めました。また、こうした貴重なご意見は、今後の男女共同参画の推進を図るうえで、参考にさせていただきます。

どの事業所も協力的であったことに感謝しています。

*** 各事業所の状況、感想等について**

- ・クリーニング業も他の業種と同様で、後継者がなく、廃業する店も出ている。開業するにしても、なかなか難しい状況だと深刻に話された。
- ・安定した会社経営で、女性職員も働きやすい環境を自分達で作っている。
- ・ホームページも女性を主体とした項目が多く、時代の流れを取り込んでいる。
- ・建設業は、女性の管理職を置かない会社が多いのだが、若い女性管理職を置いている点が素晴らしい。男性が多い職場なので、ハラスメントはと尋ねたが、「女性の方が強いので何ともないです。」と、あっけらかんと答える姿が、とても好印象であった。
- ・応対の女性が、なぜ今の人とは結婚しないし、若い人が仕事につかないのだろうと真剣に話されたのが、印象に残った。
- ・育休明けの女性は、時間給が取れるとのことで、こういうことは、女性が社長だからできることだと思いと、キッパリと話されたのはうれしい話であった。
- ・女性が多い職場なので、女性が働きやすい職場にしないと、経営が成り立たない。女性の意見を多く取り入れていると話された。
- ・輝く女性活躍応援団の加入については、加入することで、女性が働きやすい環境になればとの思いで加入した。
- ・パートの年齢は、一応既定してはあるが、年齢制限はなく、勤められるだけ勤めてほしい。
- ・障がい者施設は、離職率が高いのだが、ここの施設は少ないと話され、働きやすい環境であると感じた。以前伺ったときもそうであったが、採用は、現場の職員が現在も行っているとのことであった。素晴らしい考え方である。
- ・副理事長が、男女共同参画とはもう言わなくてもよい時代ではと話され、同感であった。
- ・性の多様性についての関心が高い会社であると感じた。男とか女とかの視点ではなく、誰もが着られる服に焦点を当てて、企業展開している。
- ・市役所前の店側通路開放してるのは、店の存在を知ってほしいためにしているのだと話され、相乗効果の視点からの発想であった。

- ・平成7年3月設立で、急成長の会社である。理由を尋ねると、日本人の労働者人口が減少し、特に、若者の人手不足で、時代の流れが、人材派遣業を求めていることだろうと言われた。
- ・とにかく、バイタリティ溢れた総務部長で、圧倒された。こういう女性が、今日の男女共同参画社会を引っ張って見えたのだろう。
- ・センターの不祥事について質問されたのには、困った。経過等について答えたが、設立時に賛助会費も納められていたみたいで、やはりあの当時に関わった人は、熱い思いであったことだろう、大変な苦労があったことだろうと改めて思った。